

# 佐伯市総合体育館



所在地：大分県佐伯市大字長谷2614番地  
 建築面積：5,691.56㎡  
 延床面積：6,753㎡  
 メインアリーナ：1,694㎡、サブアリーナ：990㎡  
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上2階建  
 施主：佐伯市  
 設計・監理：(株)INA新建築研究所  
 施工：建築／西松・管政 建設工事共同企業体  
 電気／中電工・佐伯電設 建設工事共同企業体  
 竣工：平成19年3月

佐伯市は「一市民・一スポーツ」のスローガンのもと市民の健康づくりを推進しており、そのスポーツの拠点として佐伯市総合体育館が完成。700Wネオハイドランプバラスト付ランプホルダー用反射笠を分散配置して、公式競技レベルに対応する照度を確保しています。

## 県南地域のスポーツレクリエーションの拠点 トップクラスの質の高いスポーツ観戦を提供

佐伯市総合体育館が立地する佐伯市総合運動公園は、約72ヘクタールの広大な敷地に陸上競技場、野球場、サッカーやラグビーに使用する多目的広場、相撲場など、各競技施設が整備されており、最近では大分トリニータがJ2時代に一部の公式戦を行っていた場所として、また2002年のFIFAワールドカップの際にはチュニジア代表チームのキャンプ地として知られています。佐伯市が掲げる「一市民・一スポーツ」のスローガンのもと、市民の健康づくりを推進する一方で質の高いスポーツ観戦ができる機会を提供しており、そのなか平成19年3月に佐伯市総合体育館が完成しました。現在では日本フットサルリーグの公式競技場となっているほか、今年行われるチャレンジ大分国体のレスリング全種別の会場ともなり、市内はもとより大分県南地域のスポーツレクリエーションの拠点として、市民に親しまれる総合体育館となっています。

## バラスト付ランプホルダー用昇降装置付 高天井用反射笠を2台1組で分散配置

当施設は館内の中央に位置する吹抜け空間を挟んで、メインアリーナとサブアリーナを分割利用ができる構成となっています。メインアリーナは44m×38.5mの広さでバスケットボール2面、バレーボール3面、フットサル2面、バドミントン10面に対応しており、2階には1100席の観客席を備えています。照明は700Wネオハイドランプを光源とした反射笠器具を2台1組にして合計128台を分散配置しており、灯具にはバラスト付ランプホルダー用ガード付電動昇降装置を採用しています。日常の練習はもちろん、公式競技に対応する照度として平均水平面照度1000lxレベルを確保し、ボールなどの動きや移動速度が判断できる照度レベルを確保しています。

一方、サブアリーナは33m×30mの広さで、バスケット1面、バレーコート2面を確保する広さで、メインアリーナと同仕様の照明器具を合計64台配置して、同じく平均水平面照度1000lxレベルを確保しています。低電流始動形の安定器を採用しているため、電源設備の負荷を低減し、安定した照明環境を実現しています。

施設は付帯設備も充実しており、トレーニングルームでは、FHP32W4灯用スクエア器具を等間隔に配置して、スポーツレクリエーションが楽しめる爽やかな光環境を創り出しています。



アリーナ全景 大分県産の杉材を遮音板に使用した特徴的なアリーナ全景を望む。700Wネオハイドランプバラスト付ランプホルダー用反射笠を2台1組で分散配置



サブアリーナ バスケットボール1面を確保する33m×30mの広さのサブアリーナ

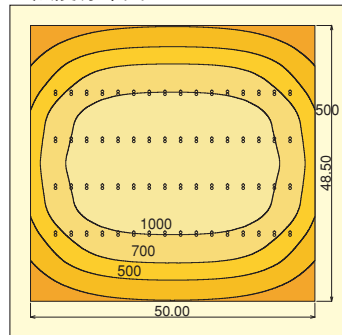


コミュニティスペース 無垢材の隙間にトラフ器具を配して落ち着いた空間を演出



トレーニングルーム FHP32W4灯用下面開放形スクエア器具の調光タイプを採用したトレーニングルーム

## 照度分布図



## 主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
アリーナ	HID反射笠	SN-10044A	192	700Wネオハイドランプ (MF700.L-J/BU)
	バラスト付ホルダー	HEL-7020-200HWP	192	
	昇降装置	HUD-26101-200	192	
トレーニングルーム	埋込スクエア形下面開放器具	FHR-34310-PR9	26	FHP32W (FHP32EN〈昼白色〉)